

【熊本県納税貯蓄組合連合会会長賞】

過去と今と未来をつなぐ税の架け橋

菊池市立七城中学校

二年 園田 好誠

消費税の「増税」で大きな「負担」という言葉をよく耳にする今、僕はなぜニュースなどで、新たな税金の使い方などではなく、人々の「負担」という面を強調されるのかと不思議に思いました。僕は、税から受けている恩を当然のようにも受け入れすぎており、あまり他の人々のこと、国際社会についてあまり考えていないからなのではないかと、思います。

では、負担という言葉をよく耳にするときだいたい「増税」ということをよくききます。そこでなぜ、税が増えると人々はメリットがないというように「負担」と使うのか気になり調べて見ました。すると、メリットが社会的問題を解決するために使うことが分かりました。なので、税の使い道などの情報がしつかりといきわたっていない、税への認識度の低さも問題だと新たに思いました。

それから、税は後先考えず、やみくもに使い、一時的な快適な暮らしをするためではなく、また、納税している人だけがサービスを受けるというものでもない。税を納めるということとは、将来、社会を背負い、海を越えて世界の人々も笑顔にしているために使い、安心・安全で一日一日を謳歌することができるようを使うものでもあり、今の人々に過去の苦労や税に関する闘いの跡を教えるため、そして、より大きく輝く未来への架け橋を作っていくために使うということだと思えます。

そして、税を納め続けていくために、相手も自分も心地よくいるためにできることを考えました。僕は、身近にある学校の施設・教科書などの教材を今よりも大事に、省エネを心がけることが大切だと思いました。また、税について関心を強く持つことも大切だと思えます。

今後、少子高齢化や人材不足が更に進み、深刻になっていくことだろう。今ある自分の課題をコツコツと自分なりに進め、将来に関わることでしっかりと理解することが大切だと思います。学校の租税教室で一生懸命学び、もっと税の使い道を知りたいと思っています。また、その学ぶ場である学校も「税」が使われています。きっとそうすることで納税することと「人への思いやり」へと変化していくことでしょう。

最後に、税について両親・友達・いとこと意見を交えることで、「国際社会と過去と今、今と未来を繋ぎ取る税」というものを心から感じ取り、新たな考え方や税の在り方を捉えるきっかけになると思う。